

赤く輝く長寿星

カノープスを見つけよう★

日本では限られた場所でしか見ることの出来ない

カノープスをこちらの展望室から観測することができます!!

カノープスとは

りゅうこつ座のカノープスは、おおいぬ座のシリウスに次いで全天で2番目に明るい星（恒星）です。しかし、日本の多くの地域でのカノープスの南中高度（南の空で最も高くなる時の高度）は低く、見つけにくい星としても知られています。



カノープスは本来は白く輝く恒星です。しかし、空の低い位置に見える星は地球の大気の影響で、実際の明るさよりも暗く、赤みがかかった色に見えます。中国では、カノープスを「南極老人星（なんきょくろうじんせい）」と呼び、この星を見ると寿命が延びる、という言い伝えがあるそうです。

夜更け前にカノープスが南中する2月は、観察のチャンスです。よく晴れた夜、にカノープスを探してみましょう。右の図のように、冬の大三角やおおいぬ座のシリウスを目印にするとよいでしょう。



カノープスを見つけよう

2020年2月 カノープスが南中するこの星空
※カノープスの高度が低いと、地域の大気の影響により、赤く見えます

カノープスを見られる時間帯

12/1 24時ころ
1/1 22時ころ
2/1 20時ころ

出の時間は1日に4分づつ早くなっています

ネイチャーガイド 田中先生より
・日本国内でカノープスが見られるのはとても貴重！是非ご覧になつてください。

もっと

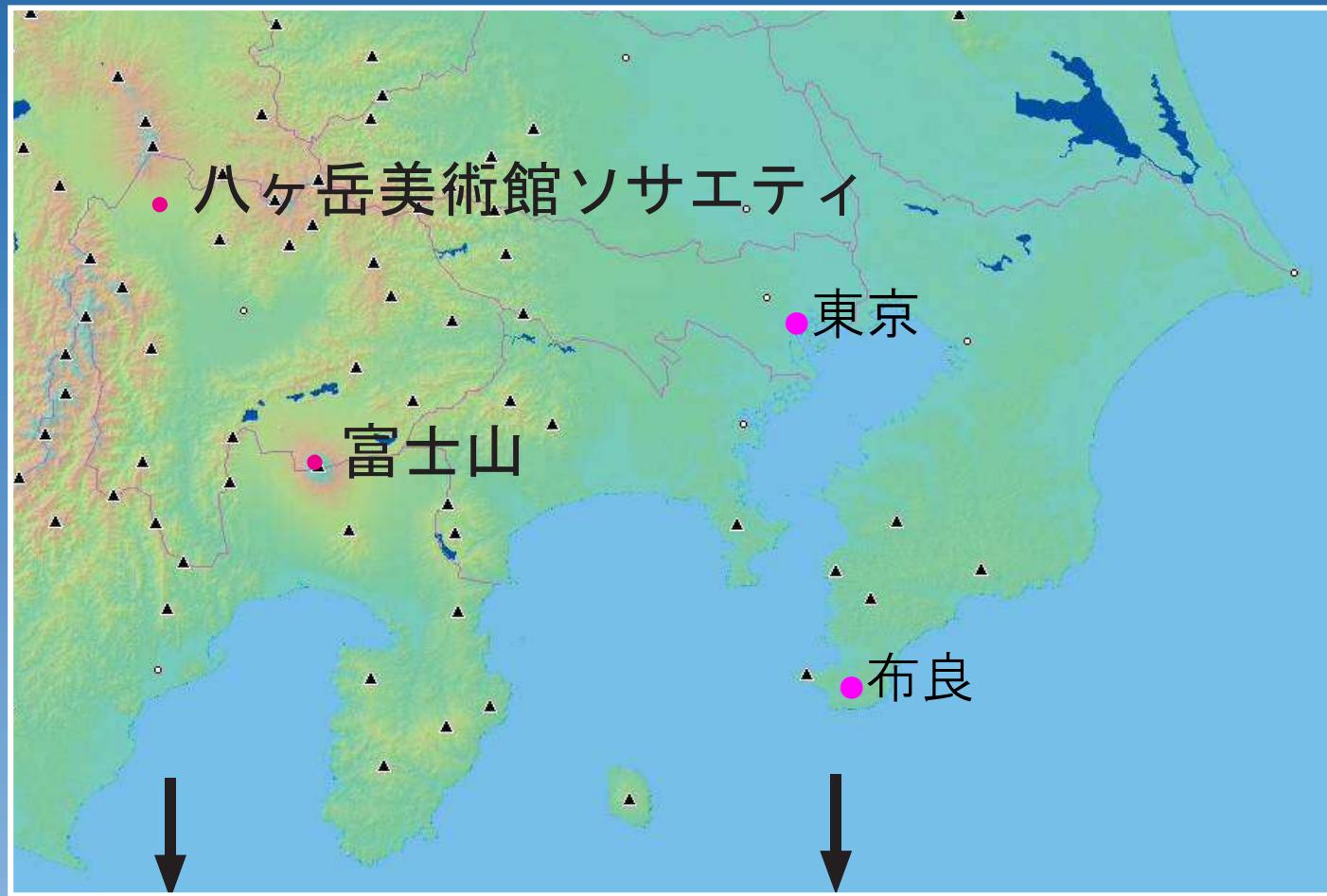
カノープスをもっと詳しく

- カノープスはりゅうこつ座の1等星で冬、南の地平線ぎりぎりにしか現れません。

なかなか見られないこの星を見ると「長生きする」といわれます。別名「南極老人星」とも「布良(めら)星」とも言われます。布良星の由来は千葉県房総半島の突端にある「布良(めら)」という場所で見られるのでそう呼ばれます。

- ふつう、カノープスは南の地平線が見える海岸などでなければ観察できません。

しかし、偶然にも八ヶ岳美術館ソサエティの展望室からカノープスが見えます。山岳地域で見られる場所はとても珍しいのです。この場所は標高約1100mから見下ろす場所で、しかも南が富士川に沿って開けているからです。



南

南

•ダイヤモンド八ヶ岳でカノープスを見る方法

- 1、見える方向に雲や霧、モヤがない日。
- 2、見える期日と時間が限られます。
- 3、月明かりのない日には肉眼でも見えますが、月明かりがあるときは双眼鏡などで探してください。カノープスは赤く輝いています。

•見る方向

甲府盆地の夜景の右側の地平線近く。

山名の解説板を見ると「甘利山」があります。

カノープスは甘利山のやや左から真上を通過して、山に隠れます。



•カノープスが見える時刻表

日時	見え始め	南中	山に隠れて見えなくなる時刻
12月1日	0:30	1:30	1:55
12月15日	23:35	0:35	0:50
1月1日	22:30	23:30	23:55
1月15日	21:30	22:30	22:55
2月1日	20:25	21:25	21:50
2月15日	19:30	20:30	20:55
3月1日	18:40	19:35	20:00
3月10日	18:45	19:00	19:25

カノープスは上記の時刻表の 12/1 ~ 3/1までの間なら毎日見られます。

「南中時刻」の、1時間前、25分後まで見られます。

南中時刻が月日を追うごとに、早くなってきます。(半月で約 1 時間、
1 日約 4 分)

時刻表にない日はおおよその南中時刻を読み取り観察してください。

ただし、3/10 くらいが最終で、日没の時間が遅くなる分、見える時間は
少なくなります。



自慢の展望室から
素敵な景色を
楽しもう♪

